

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	井ノ上 了吏
主な担当科目	キャリアデザイン,オペラ特別演習①,歌曲特別演習①,歌曲特別演習②,オペラ特別演習②,実技個人レッスン[声楽①,声楽 I ②,声楽 I ③,声楽 I ④,音楽芸術表現実技(声楽)①②,博士特別表現研究①②]
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	声楽作品、オペラ作品の歌唱におけるテキストとスコアの関係性を把握し、作品への理解と解釈を深め、音楽を構築できる事を目標として、レッスン、授業を充実させるべく臨む。また、新しくキャリア委員長としてキャリアデザインの授業を受け持つ上で、コースを超えて、すべての本学で学ぶ学生の将来の参考となる授業を進められる授業作りを臨む。
2022年の教育に関する自己評価	2022年度は全世界手にコロナ感染予防も緩和され、すべてが対面の授業に戻されたが、以前マスク歌唱は継続となり、その中で本質的な発声のモード、また表現について指導ができたと考える。またキャリアデザインの授業においては、多くのコースの専任・非常勤の先生方、本学卒業生に登壇していただき、学生たちの将来のキャリアを文字通りデザインしていただけたと考える。
2022年のFD活動に関する自己評価	FD委員会、研究科FD委員として学内組織、FD研修会などで積極的に意見を述べた。
授業改善のために取り入れた研修内容	コロナ感染防止対策緩和策の中で、いかにマスク、パーテーションの配置、また非接触から軽度な接触になった場合の方策を随時検証して、方策を練り続け、特に多数の学生がかかわる授業に緊張し、かつ過度なものにならないように目を光らせ生徒の自由な発想ができる環境を試みた。

科目名－クラス名

キャリアデザイン

A

曜日時限

火 5時限

担当教員

井ノ上 了吏

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
講義	2～	前期	1	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				0	45	0	0	55	100

教育到達目標と概要

本授業では、キャリアコンサルタント資格を持つ教員が、複眼的な視野を広げ自己のキャリアをデザインし、目標設定をするための指導を行う。
音楽業界・演奏活動など、社会の最前線で活動している実務家(業界関係者、本学教員や卒業生)を特別講師/外部講師として、オムニバス形式で音楽業界の現状や国内外の事情について講義を行い、音楽大学の特性を活かし、幅広い視点で音楽を捉える力を育み、将来にわたって多方面で活躍できる人材の育成を目指す。

学修成果

多様なゲストスピーカーのお話から、文化芸術・社会に関する知識と理解を深め、音楽業界の現状やニーズについて知るとともに、自身のキャリアについて考え、具体的な行動へと結びつけることができる。また、授業の記録やレポートの作成によって情報活用能力や文章力を身につけることができる。

授業展開と内容

- 第1回 (5/10) オリエンテーション：授業の概要と流れ、ゲストスピーカーについて、マナーとコミュニケーション ◇岩村、井ノ上
- 第2回 (5/17) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：エンターテインメント業界で大切なこと） ◇岩村、井ノ上 特別講師（検討中）
- 第3回 (5/24) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：感動が人を創る） ◇岩村、井ノ上、特別講師（検討中）
- 第4回 (5/31) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：アーティストとオーディエンスの心を繋ぐプロデューサー） ◇岩村、井ノ上、特別講師（検討中）
- 第5回 (6/7) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：音楽の仕事・セルフマネジメントについて） ◇岩村、井ノ上、特別講師（検討中）
- 第6回 (6/14) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：音楽の仕事・セルフマネジメントについて） ◇岩村、井ノ上、特別講師（検討中）
- 第7回 (6/21) 卒業生と語る②（本学卒業生によるパネルディスカッションとフリートーク） ◇岩村、井ノ上、外部講師（卒業生ゲスト：検討中）
- 第8回 (6/28) 卒業生と語る②（本学卒業生によるパネルディスカッションとフリートーク） ◇岩村、井ノ上、外部講師（卒業生ゲスト：検討中）
- 第9回 (7/5) まとめと目標設定 ◇岩村、井ノ上
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

* ゲストスピーカー、講義タイトル等の追加情報については授業や掲示、ポータルサイト等で確認すること。
・実施日程が変則的であるため、日程・時間・教室等に留意すること。
・遅刻・早退・私語厳禁。主体的で積極的な授業への参加を希望する。
・試験（7/5の同時間を予定）の詳細については授業内で指示する。
<課題提出>年度末課題、レポートなど（授業内で指示） <授業内小テスト>各回の授業終了時のレポート提出

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

・多様なゲストスピーカーの方々のプロフィールや、関連の仕事について理解するための予習（60分）を行い、積極的に授業に臨むこと。また、終了後は授業内で興味を持った事柄について調べ復習（30分）を行うこと。・フィードバック：各回の授業終了時のレポートを最終回（8週目）に各自に返却し、まとめと目標設定に役立てます。

■ 教科書・参考書

・必要に応じてプリントを配付します。

科目名－クラス名

キャリアデザイン

B

曜日時限

水 5時限

担当教員

井ノ上 了吏

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
講義	2～	前期	1	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				0	0	45	0	55	100

教育到達目標と概要

本授業では、キャリアコンサルタント資格を持つ教員が、複眼的な視野を広げ自己のキャリアをデザインし、目標設定をするための指導を行う。
音楽業界・演奏活動など、社会の最前線で活動している実務家(業界関係者、本学教員や卒業生)を特別講師/外部講師として、オムニバス形式で音楽業界の現状や国内外の事情について講義を行い、音楽大学の特性を活かし、幅広い視点で音楽を捉える力を育み、将来にわたって多方面で活躍できる人材の育成を目指す。

学修成果

多様なゲストスピーカーのお話から、文化芸術・社会に関する知識と理解を深め、音楽業界の現状やニーズについて知るとともに、自身のキャリアについて考え、具体的な行動へと結びつけることができる。また、授業の記録やレポートの作成によって情報活用能力や文章力を身につけつづけることができる。

授業展開と内容

- 第1回 (5/11) オリエンテーション：授業の概要と流れ、ゲストスピーカーについて、マナーとコミュニケーション ◇岩村、井ノ上
- 第2回 (5/18) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：エンターテインメント業界で大切なこと） ◇岩村、井ノ上 特別講師（検討中）
- 第3回 (5/25) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：感動が人を創る） ◇岩村、井ノ上、特別講師（検討中）
- 第4回 (6/1) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：アーティストとオーディエンスの心を繋ぐプロデューサー） ◇岩村、井ノ上、特別講師（検討中）
- 第5回 (6/8) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：音楽の仕事・セルフマネジメントについて） ◇岩村、井ノ上、特別講師（検討中）
- 第6回 (6/15) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：音楽の仕事・セルフマネジメントについて） ◇岩村、井ノ上、特別講師（検討中）
- 第7回 (6/22) 卒業生と語る②（本学卒業生によるパネルディスカッションとフリートーク） ◇岩村、井ノ上、外部講師（卒業生ゲスト：検討中）
- 第8回 (6/28) 卒業生と語る②（本学卒業生によるパネルディスカッションとフリートーク） ◇岩村、井ノ上、外部講師（卒業生ゲスト：検討中）
- 第9回 (7/6) まとめと目標設定 ◇岩村、井ノ上
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

* ゲストスピーカー、講義タイトル等の追加情報については授業や掲示、ポータルサイト等で確認すること。・実施日程が変則的であるため、日程・時間・教室等に留意すること。・遅刻・早退・私語厳禁。主体的で積極的な授業への参加を希望する。・試験（7/6の同時間を予定）の詳細については授業内で指示する。
<課題提出>年度末課題、レポートなど（授業内で指示） <授業内小テスト>各回の授業終了時のレポート提出

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

・多様なゲストスピーカーの方々のプロフィールや、関連の仕事について理解するための予習（60分）を行い、積極的に授業に臨むこと。また、終了後は授業内で興味を持った事柄について調べ復習（30分）を行うこと。・フィードバック：各回の授業終了時のレポートを最終回（8週目）に各自に返却し、まとめと目標設定に役立てます。

■ 教科書・参考書

・必要に応じてプリントを配付します。

科目名－クラス名

キャリアデザイン

A

曜日時限

火 5時限

担当教員

井ノ上 了吏

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
講義	2～	前期	1	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				0	0	45	0	55	100

教育到達目標と概要

本授業では、キャリアコンサルタント資格を持つ教員が、複眼的な視野を広げ自己のキャリアをデザインし、目標設定をするための指導を行う。
音楽業界・演奏活動など、社会の最前線で活動している実務家(業界関係者、本学教員や卒業生)を特別講師/外部講師として、オムニバス形式で音楽業界の現状や国内外の事情について講義を行い、音楽大学の特性を活かし、幅広い視点で音楽を捉える力を育み、将来にわたって多方面で活躍できる人材の育成を目指す。

学修成果

多様なゲストスピーカーのお話から、文化芸術・社会に関する知識と理解を深め、音楽業界の現状やニーズについて知るとともに、自身のキャリアについて考え、具体的な行動へと結びつけることができる。また、授業の記録やレポートの作成によって情報活用能力や文章力を身につけることができる。

授業展開と内容

- 第1回 (5/10) オリエンテーション：授業の概要と流れ、ゲストスピーカーについて、マナーとコミュニケーション ◇岩村、井ノ上
- 第2回 (5/17) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：エンターテインメント業界で大切なこと） ◇岩村、井ノ上 特別講師（検討中）
- 第3回 (5/24) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：感動が人を創る） ◇岩村、井ノ上、特別講師（検討中）
- 第4回 (5/31) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：アーティストとオーディエンスの心を繋ぐプロデューサー） ◇岩村、井ノ上、特別講師（検討中）
- 第5回 (6/7) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：音楽の仕事・セルフマネジメントについて） ◇岩村、井ノ上、特別講師（検討中）
- 第6回 (6/14) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：音楽の仕事・セルフマネジメントについて） ◇岩村、井ノ上、特別講師（検討中）
- 第7回 (6/21) 卒業生と語る②（本学卒業生によるパネルディスカッションとフリートーク） ◇岩村、井ノ上、外部講師（卒業生ゲスト：検討中）
- 第8回 (6/28) 卒業生と語る②（本学卒業生によるパネルディスカッションとフリートーク） ◇岩村、井ノ上、外部講師（卒業生ゲスト：検討中）
- 第9回 (7/5) まとめと目標設定 ◇岩村、井ノ上
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

* ゲストスピーカー、講義タイトル等の追加情報については授業や掲示、ポータルサイト等で確認すること。
・実施日程が変則的であるため、日程・時間・教室等に留意すること。
・遅刻・早退・私語厳禁。主体的で積極的な授業への参加を希望する。
・試験（7/5の同時間を予定）の詳細については授業内で指示する。
<課題提出>年度末課題、レポートなど（授業内で指示） <授業内小テスト>各回の授業終了時のレポート提出

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

・多様なゲストスピーカーの方々のプロフィールや、関連の仕事について理解するための予習（60分）を行い、積極的に授業に臨むこと。また、終了後は授業内で興味を持った事柄について調べ復習（30分）を行うこと。・フィードバック：各回の授業終了時のレポートを最終回（8週目）に各自に返却し、まとめと目標設定に役立てます。

■ 教科書・参考書

・必要に応じてプリントを配付します。

科目名－クラス名

キャリアデザイン

B

曜日時限

水 5時限

担当教員

井ノ上 了吏

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
講義	2～	前期	1	0	0	45	0	55	100

教育到達目標と概要

本授業では、キャリアコンサルタント資格を持つ教員が、複眼的な視野を広げ自己のキャリアをデザインし、目標設定をするための指導を行う。
音楽業界・演奏活動など、社会の最前線で活動している実務家(業界関係者、本学教員や卒業生)を特別講師/外部講師として、オムニバス形式で音楽業界の現状や国内外の事情について講義を行い、音楽大学の特性を活かし、幅広い視点で音楽を捉える力を育み、将来にわたって多方面で活躍できる人材の育成を目指す。

学修成果

多様なゲストスピーカーのお話から、文化芸術・社会に関する知識と理解を深め、音楽業界の現状やニーズについて知るとともに、自身のキャリアについて考え、具体的な行動へと結びつけることができる。また、授業の記録やレポートの作成によって情報活用能力や文章力を身につけつづけることができる。

授業展開と内容

- 第1回 (5/11) オリエンテーション：授業の概要と流れ、ゲストスピーカーについて、マナーとコミュニケーション ◇岩村、井ノ上
- 第2回 (5/18) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：エンターテインメント業界で大切なこと） ◇岩村、井ノ上 特別講師（検討中）
- 第3回 (5/25) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：感動が人を創る） ◇岩村、井ノ上、特別講師（検討中）
- 第4回 (6/1) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：アーティストとオーディエンスの心を繋ぐプロデューサー） ◇岩村、井ノ上、特別講師（検討中）
- 第5回 (6/8) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：音楽の仕事・セルフマネジメントについて） ◇岩村、井ノ上、特別講師（検討中）
- 第6回 (6/15) 特別講師による講義（タイトル検討中。過去の例：音楽の仕事・セルフマネジメントについて） ◇岩村、井ノ上、特別講師（検討中）
- 第7回 (6/22) 卒業生と語る②（本学卒業生によるパネルディスカッションとフリートーク） ◇岩村、井ノ上、外部講師（卒業生ゲスト：検討中）
- 第8回 (6/29) 卒業生と語る②（本学卒業生によるパネルディスカッションとフリートーク） ◇岩村、井ノ上、外部講師（卒業生ゲスト：検討中）
- 第9回 (7/6) まとめと目標設定 ◇岩村、井ノ上
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

* ゲストスピーカー、講義タイトル等の追加情報については授業や掲示、ポータルサイト等で確認すること。
・実施日程が変則的であるため、日程・時間・教室等に留意すること。
・遅刻・早退・私語厳禁。主体的で積極的な授業への参加を希望する。
・試験（7/6の同時間を予定）の詳細については授業内で指示する。
<課題提出>年度末課題、レポートなど（授業内で指示） <授業内小テスト>各回の授業終了時のレポート提出

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

・多様なゲストスピーカーの方々のプロフィールや、関連の仕事について理解するための予習（60分）を行い、積極的に授業に臨むこと。また、終了後は授業内で興味を持った事柄について調べ復習（30分）を行うこと。・フィードバック：各回の授業終了時のレポートを最終回（8週目）に各自に返却し、まとめと目標設定に役立てます。

■ 教科書・参考書

・必要に応じてプリントを配付します。

科目名－クラス名

オペラ特別演習①

曜日時限

水 3時限

水 4時限

担当教員

井ノ上 了吏

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	1～	通年	4	50	0	0	0	50	100

教育到達目標と概要

各個人の声質や役柄のキャラクターを生かし、オペラ歌手に必要な歌唱法及び舞台表現の基礎を総合的に研究する。オペラを創る過程を体感しながらオペラの仕組みを体得していく。前後期ともに其々の研究題材に則した課題の範囲を決め、試演会で発表する。試演会に向けコレペティ稽古、立ち稽古、通し稽古というオペラを創っていく上で定石の過程を踏み、各担当教員から指導を受け、本番までの稽古に臨む。

学修成果

オペラ歌手に必要な歌唱法及び舞台表現の基礎を身に付けることができる。オペラを創る過程を体感しながらオペラの仕組みを体得することができる。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス（配役、演目についての説明）
第2回	コレペティ稽古の基礎
第3回	コレペティ稽古の基礎と応用
第4回	コレペティ稽古の応用
第5回	音楽稽古の基礎
第6回	音楽稽古の基礎と応用
第7回	音楽稽古の応用
第8回	立ち稽古の基礎
第9回	立ち稽古の基礎と応用
第10回	立ち稽古の応用
第11回	立ち稽古の実践
第12回	立ち稽古のまとめ
第13回	通し稽古
第14回	ゲネプロ
第15回	本番（試演会）
第16回	ガイダンス（配役、演目についての説明）
第17回	コレペティ稽古の基礎
第18回	コレペティ稽古の基礎と応用
第19回	コレペティ稽古の応用
第20回	音楽稽古の基礎
第21回	音楽稽古の基礎と応用
第22回	音楽稽古の応用
第23回	立ち稽古の基礎
第24回	立ち稽古の基礎と応用
第25回	立ち稽古の応用
第26回	立ち稽古の応用と実践
第27回	立ち稽古の実践
第28回	立ち稽古のまとめ
第29回	通し稽古
第30回	ゲネプロ

履修上の注意

グループで行う授業であり、学修効果を高めるためにも積極的な姿勢で授業に取り組むこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

役に関する十分な研究をして授業に臨む（240分以上/週）

必要に応じて授業外で補講を行う。

前期試演会および後期試験で講評によるフィードバックを行う。

教科書・参考書

必要に応じてその都度、指示を与える。

科目名－クラス名

歌曲特別演習①

曜日時限

金 5時限

金 6時限

担当教員

井ノ上 了吏

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	4		0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

声楽家として詩と音楽双方からの研究を通して、歌曲（伊・仏・独・西・日）各言語の特性を知り、その国の文化、芸術を踏まえ歌唱法を研究していきます。1年次はよく演奏される作品を取り上げ各言語に対応できる演奏法を身につけ、作品研究を通してレベルの高い歌唱技能を修得する。

学修成果

各言語（伊・仏・独・西・日）詩の型を知り、深く味わうことができる。歌唱における各言語の明瞭な発音、発語を専門の各担当教員が指導し様々な作曲様式や民族性の魅力を指導し、レベルの高い歌唱が修得できる。

授業展開と内容

- 第1回 イタリア歌曲 担当教員ガイダンス(担当教員 鈴木) 1年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 担当教員ガイダンス(担当教員 大森) 1年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。
- 第2回 イタリア歌曲 発音の概要を把握 ベルカント作品研究① 発音の概要を把握し、ベルカント歌曲作品により演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 発音の概要を把握① 歌唱演習以前に発音の概要を把握し理解する。
- 第3回 イタリア歌曲 ベルカント作品研究? ベルカント歌曲の様式、演奏上の注意点を理解し演習する。フランス歌曲 発音の概要を把握② 歌唱演習以前に発音の概要を把握し理解する。
- 第4回 スペイン歌曲 担当教員ガイダンス (担当教員 井ノ上) 1年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 発音の概要を把握 歌唱演習以前に発音の概要を把握し理解する。
- 第5回 ドイツ歌曲 担当教員ガイダンス (担当教員 津山) 1年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。ドイツ歌曲 発音の概要を把握 歌唱演習以前に発音の概要を把握し理解する。
- 第6回 ドイツ歌曲 モーツァルト作品研究① モーツァルト作品の様式、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ロルカ作品研究① ロルカ作品の様式、演習上の注意点を理解する。
- 第7回 日本歌曲 担当教員ガイダンス (担当教員 中村) 1年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。日本歌曲 日本歌曲の成り立ちと歴史 歌唱演習以前に成り立ち、歴史を理解する。
- 第8回 日本歌曲 山田耕筰作品研究① 山田耕筰作品の様式、演習上の注意点を理解する。日本歌曲 北原白秋作品研究① 北原白秋作品の様式、演習上の注意点を理解する。
- 第9回 イタリア歌曲 トスティ作品研究① トスティ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 サティ作品研究① サティ作品の様式、発音上、演習上の注意点を理解する。
- 第10回 イタリア歌曲 トスティ作品研究② トスティ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 サティ作品研究② サティ作品の様式、発音上の注意点、詩の解釈、演習場の注意点を理解する。
- 第11回 日本歌曲 山田耕筰・北原白秋② 山田耕筰・北原白秋作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ロルカ作品研究② ロルカ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
- 第12回 ドイツ歌曲 モーツァルト作品研究② モーツァルト作品の様式、発音上、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ロルカ作品研究③ ロルカ作品様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
- 第13回 ドイツ歌曲 シューベルト作品研究① シューベルトの作品様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。前期成果発表準備① 前期学修した5言語の歌曲の成果発表に向けて担当教員別の指導により準備する。
- 第14回 前期成果発表合同準備② 前期学修した5言語の歌曲を成果発表に向けて準備し、より深く理解する。前期成果発表合同準備③ 前期学修した5言語の歌曲を成果発表に向けて準備し、より深く理解する。
- 第15回 前期成果発表会 成果発表における個々のプログラミングを考え、リハーサルにおける演習上の注意点を深く理解し、演奏をする。
- 第16回 日本歌曲 信時潔作品研究① 信時潔作品の様式、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 レスピーギ作品研究① レスピーギ作品の様式、演習上の注意点を理解する。
- 第17回 フランス歌曲 フォーレ作品研究② フォーレ作品の様式、発音上、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 フォーレ作品研究③ フォーレ作品の様式、発音上、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
- 第18回 日本歌曲 信時潔作品研究② 信時潔作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ファリャ作品研究① ファリャ作品の様式、発音上、演習上の注意点を理解する。
- 第19回 ドイツ歌曲 シューベルト作品研究② シューベルト作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 レスピーギ作品研究② レスピーギ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第20回	フランス歌曲 フォーレ作品研究④ フォーレ作品の様式、詩の解釈、発音、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ファリャ作品研究② ファリャ作品の様式、詩の解釈、発音、演習上の注意点を理解する。
第21回	ドイツ歌曲 シューマン作品研究① シューマン作品の様式、発音、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 チマーラ作品研究① チマーラ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
第22回	日本歌曲 橋本國彦作品研究 橋本國彦作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 フォーレ作品研究⑤ フォーレ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
第23回	日本歌曲 平井康三郎の作品研究 平井康三郎作品の注意点様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ファリャ作品研究③ ファリャ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
第24回	ドイツ歌曲 シューマン作品研究② シューマン作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 ビツェッティ作品研究① ビツェッティ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
第25回	ドイツ歌曲 シューマン作品研究③ シューマン作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ファリャ作品研究④ ファリャ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
第26回	日本歌曲 中田喜直作品研究 中田喜直作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 チマーラ・ビツェッティ作品研究② チマーラ・ビツェッティ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
第27回	ドイツ歌曲 シューマン作品研究④ シューマン作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 ドビュッシー作品研究 ドビュッシー作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
第28回	スペイン歌曲 ファリャ作品研究⑤ ファリャ作品の様式、詩の解釈、リズムのとり方、演習上の注意点を理解する。後期成果発表試演会合同準備① 1年間学修した5言語の歌曲の成果発表試演会に向けて担当教員合同で指導し演習する。
第29回	後期成果発表試演会合同準備② 1年間学修した5言語の歌曲の成果発表試演会の準備、より深く理解する。後期成果発表試演会合同準備③ 1年間学修した5言語の歌曲の成果発表試演会の準備、より深く理解する。
第30回	後期成果発表試演会 各自プログラミングの確認、リハーサルを通して1年間の最終的確認をする。試演会にいかに関心を表現するかを深く理解し学修成果の出る演奏を心掛け演奏する。

履修上の注意

- 各自、コンディションを整えて参加すること。
- 事前の学修、歌詞の朗読、譜読み、その他、十分な準備をして授業に臨むこと。
- 2022年度コロナ感染拡大防止のためオペラからの履修はしない。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- 詩集、解説書、評伝など、様々な文献などにより、積極的に必要な知識身につけること。
- 予習・復習・研究を行うこと。(240分以上/週)
- 前期試演会および後期試験で講評によるフィードバックを行う。

教科書・参考書

- 教科書：イタリア近代歌曲集 1, 2, 3 (全音出版) : フォーレ歌曲集 (全音出版) : ドビュッシー歌曲集 (全音版) : シューベルト歌曲集 (ベータース版) : シューマン歌曲集 (ベータース版) : 解説付き・日本歌曲選集 1, 2, 3 昭和音楽大学歌曲研究所・編著 (全音出版) 参考書：「日本名歌曲百撰氏の分析と解釈 (音楽の友社出版)

科目名－クラス名

歌曲特別演習①

曜日時限

金 5時限

金 6時限

担当教員

井ノ上 了吏

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	0		0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

声楽家として詩と音楽双方からの研究を通して、歌曲（伊・仏・独・西・日）各言語の特性を知り、その国の文化、芸術を踏まえ歌唱法を研究していきます。1年次はよく演奏される作品を取り上げ各言語に対応できる演奏法を身につけ、作品研究を通してレベルの高い歌唱技能を修得する。

学修成果

各言語（伊・仏・独・西・日）詩の型を知り、深く味わうことができる。歌唱における各言語の明瞭な発音、発語を専門の各担当教員が指導し様々な作曲様式や民族性の魅力を指導し、レベルの高い歌唱が修得できる。

授業展開と内容

- 第1回 イタリア歌曲 担当教員ガイダンス(担当教員 鈴木) 1年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 担当教員ガイダンス(担当教員 大森) 1年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。
- 第2回 イタリア歌曲 発音の概要を把握 ベルカント作品研究① 発音の概要を把握し、ベルカント歌曲作品により演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 発音の概要を把握① 歌唱演習以前に発音の概要を把握し理解する。
- 第3回 イタリア歌曲 ベルカント作品研究? ベルカント歌曲の様式、演奏上の注意点を理解し演習する。フランス歌曲 発音の概要を把握② 歌唱演習以前に発音の概要を把握し理解する。
- 第4回 スペイン歌曲 担当教員ガイダンス (担当教員 井ノ上) 1年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 発音の概要を把握 歌唱演習以前に発音の概要を把握し理解する。
- 第5回 ドイツ歌曲 担当教員ガイダンス (担当教員 津山) 1年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。ドイツ歌曲 発音の概要を把握 歌唱演習以前に発音の概要し理解する。
- 第6回 ドイツ歌曲 モーツァルト作品研究① モーツァルト作品の様式、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ロルカ作品研究① ロルカ作品の様式、演習上の注意点を理解する。
- 第7回 日本歌曲 担当教員ガイダンス (担当教員 中村) 1年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。日本歌曲 日本歌曲の成り立ちと歴史 歌唱演習以前に成り立ち、歴史を理解する。
- 第8回 日本歌曲 山田耕筰作品研究① 山田耕筰作品の様式、演習上の注意点を理解する。日本歌曲 北原白秋作品研究① 北原白秋作品の様式、演習上の注意点を理解する。
- 第9回 イタリア歌曲 トスティ作品研究① トスティ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 サティ作品研究① サティ作品の様式。発音上、演習上の注意点を理解する。
- 第10回 イタリア歌曲 トスティ作品研究② トスティ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 サティ作品研究② サティ作品の様式、発音上の注意点、詩の解釈、演習場の注意点を理解する。
- 第11回 日本歌曲 山田耕筰・北原白秋② 山田耕筰・北原白秋作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ロルカ作品研究② ロルカ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
- 第12回 ドイツ歌曲 モーツァルト作品研究② モーツァルト作品の様式、発音上、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ロルカ作品研究③ ロルカ作品様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
- 第13回 ドイツ歌曲 シューベルト作品研究① シューベルトの作品様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。前期成果発表準備① 前期学修した5言語の歌曲の成果発表に向けて担当教員別の指導により準備する。
- 第14回 前期成果発表合同準備② 前期学修した5言語の歌曲を成果発表に向けて準備し、より深く理解する。前期成果発表合同準備③ 前期学修した5言語の歌曲を成果発表に向けて準備し、より深く理解する。
- 第15回 前期成果発表会 成果発表における個々のプログラミングを考え、リハーサルにおける演習上の注意点を深く理解し、演奏をする。
- 第16回 日本歌曲 信時潔作品研究① 信時潔作品の様式、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 レスピーギ作品研究① レスピーギ作品の様式、演習上の注意点を理解する。
- 第17回 フランス歌曲 フォーレ作品研究② フォーレ作品の様式、発音上、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 フォーレ作品研究③ フォーレ作品の様式、発音上、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
- 第18回 日本歌曲 信時潔作品研究② 信時潔作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ファリャ作品研究① ファリャ作品の様式、発音上、演習上の注意点を理解する。
- 第19回 ドイツ歌曲 シューベルト作品研究② シューベルト作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 レスピーギ作品研究② レスピーギ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第20回	フランス歌曲 フォーレ作品研究④ フォーレ作品の様式、詩の解釈、発音、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ファリャ作品研究② ファリャ作品の様式、詩の解釈、発音、演習上の注意点を理解する。
第21回	ドイツ歌曲 シューマン作品研究① シューマン作品の様式、発音、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 チマーラ作品研究① チマーラ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
第22回	日本歌曲 橋本國彦作品研究 橋本國彦作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 フォーレ作品研究⑤ フォーレ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
第23回	日本歌曲 平井康三郎の作品研究 平井康三郎作品の注意点様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ファリャ作品研究③ ファリャ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
第24回	ドイツ歌曲 シューマン作品研究② シューマン作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 ビツェッティ作品研究① ビツェッティ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
第25回	ドイツ歌曲 シューマン作品研究③ シューマン作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ファリャ作品研究④ ファリャ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
第26回	日本歌曲 中田喜直作品研究 中田喜直作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 チマーラ・ビツェッティ作品研究② チマーラ・ビツェッティ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
第27回	ドイツ歌曲 シューマン作品研究④ シューマン作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 ドビュッシー作品研究 ドビュッシー作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。
第28回	スペイン歌曲 ファリャ作品研究⑤ ファリャ作品の様式、詩の解釈、リズムのとり方、演習上の注意点を理解する。後期成果発表試演会合同準備① 1年間学修した5言語の歌曲の成果発表試演会に向けて担当教員合同で指導し演習する。
第29回	後期成果発表試演会合同準備② 1年間学修した5言語の歌曲の成果発表試演会の準備、より深く理解する。後期成果発表試演会合同準備③ 1年間学修した5言語の歌曲の成果発表試演会の準備、より深く理解する。
第30回	後期成果発表試演会 各自プログラミングの確認、リハーサルを通して1年間の最終的確認をする。試演会にいかに関心を表現するかを深く理解し学修成果の出る演奏を心掛け演奏する。

履修上の注意

- 各自、コンディションを整えて参加すること。
- 事前の学修、歌詞の朗読、譜読み、その他、十分な準備をして授業に臨むこと。
- 2022年度コロナ感染拡大防止のためオペラからの履修はしない。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- 詩集、解説書、評伝など、様々な文献などにより、積極的に必要な知識身につけること。
- 予習・復習・研究を行うこと。(240分以上/週)
- 前期試演会および後期試験で講評によるフィードバックを行う。

教科書・参考書

- 教科書：イタリア近代歌曲集 1, 2, 3 (全音出版) : フォーレ歌曲集 (全音出版) : ドビュッシー歌曲集 (全音版) : シューベルト歌曲集 (ベータース版) : シューマン歌曲集 (ベータース版) : 解説付き・日本歌曲選集 1, 2, 3 昭和音楽大学歌曲研究所・編著 (全音出版) 参考書：「日本名歌曲百撰氏の分析と解釈 (音楽の友社出版)

科目名－クラス名

歌曲特別演習②

曜日時限

水 4時限

水 5時限

担当教員

井ノ上 了史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	2～	通年	4		0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

1年次に学んだ歌曲（日・伊・仏・独・西）各5言語の中から2言語を選択し、さらに文化・歴史を踏まえた各作曲者の作品の本質をとらえ専門的な知識と詩の内容を研究するとともに、その歌曲の世界観、芸術性を表現できる歌唱技術を修得する。

学修成果

2年次に選択した2言語を美しく明瞭に表現する歌唱法を身に付けることができる。さまざまな歌曲の世界を知り、リサイタルのレパートリーを作ることができる。選択した歌曲の詩を深く味わい、その国の風景、文化、心を表現する感性を高めることができるとともに指導者としての知識と歌唱法を習得できる。

授業展開と内容

第1回 日) 黎明期の作品①/ 伊) パリゾッティの作品①/ 仏) ドビュッシーの作品①/ 独) モーツァルトの作品①/ 西) グラナドスの作品①

第2回 日) 黎明期の作品②/ 伊) パリゾッティの作品②/ 仏) ドビュッシーの作品②/ 独) モーツァルトの作品②/ 西) グラナドスの作品②

第3回 日) 山田耕作の作品①/ 伊) ベッリーニの作品/ 仏) サンサーンスの作品①/ 独) モーツァルトの作品③/ 西) グラナドスの作品③

第4回 日) 山田耕作の作品②/ 伊) ドニゼッティの作品/ 仏) サンサーンスの作品②/ 独) シューベルトの作品①/ 西) グラナドスの作品④

第5回 日) 信時潔の作品/ 伊) ロッシーニの作品/ 仏) グノーの作品①/ 独) シューベルトの作品②/ 西) ロドリゴの作品①

第6回 日) 橋本國彦の作品/ 伊) メルカダnteの作品①/ 仏) グノーの作品②/ 独) シューベルトの作品③/ 西) ロドリゴの作品②

第7回 日) 平井康三郎の作品①/ 伊) メルカダnteの作品②/ 仏) グノーの作品③/ 独) シューベルトの作品④/ 西) ロドリゴの作品③

第8回 日) 平井康三郎の作品②/ 伊) メルカダnteの作品③/ 仏) グノーの作品④/ 独) シューベルト⑤の作品②/ 西) ロドリゴの作品④

第9回 日) 別宮貞雄の作品①/ 伊) シベッラの作品①/ 仏) グノーの作品⑤/ 独) シューマンの作品①/ 西) オブラドルスの作品①

第10回 日) 別宮貞雄の作品②/ 伊) シベッラの作品②/ 仏) ビゼーの作品①/ 独) シューマンの作品②/ 西) オブラドルスの作品②

第11回 日) 中田喜直の作品①/ 伊) トゥリンデッリの作品①/ 仏) ビゼーの作品②/ 独) シューマンの作品③/ 西) オブラドルスの作品③

第12回 日) 中田喜直の作品②/ 伊) トゥリンデッリの作品②/ 仏) ビゼーの作品③/ 独) シューマンの作品④/ 西) オブラドルスの作品④

第13回 前期試演会プログラムの準備

第14回 前期試演会プログラムの完成

第15回 前期試演会

第16回 日) 高田三郎の作品①/ 伊) ヴォルフ・フェラーリの作品①/ 仏) マスネの作品①/ 独) ブラームスの作品①/ 西) カタルーニャ語の作品

第17回 日) 高田三郎の作品②/ 伊) ヴォルフ・フェラーリの作品②/ 仏) マスネの作品②/ 独) ブラームスの作品②/ 西) モンボウの作品①

第18回 日) 團伊玖磨の作品①/ 伊) レスピーギの作品①/ 仏) プーランクの作品①/ 独) ブラームスの作品③/ 西) モンボウの作品②

第19回 日) 團伊玖磨の作品②/ 伊) レスピーギの作品②/ 仏) プーランクの作品②/ 独) ブラームスの作品④/ 西) モンボウの作品③

第20回 日) 小林秀雄の作品①/ 伊) ピッツェッティの作品①/ 仏) デュバルクの作品①/ 独) R.シュトラウスの作品①/ 西) ガリシア語の作品

第21回 日) 小林秀雄の作品②/ 伊) ピッツェッティの作品②/ 仏) デュバルクの作品②/ 独) R.シュトラウスの作品②/ 西) バスク語の作品

第22回 日) 大中恩の作品①/ 伊) ザンドナイの作品①/ 仏) ショーソンの作品①/ 独) R.シュトラウスの作品③/ 西) トゥリーナの作品①

第23回 日) 大中恩の作品②/ 伊) ザンドナイの作品②/ 仏) ショーソンの作品②/ 独) R.シュトラウスの作品④/ 西) トゥリーナの作品②

第24回 日) 湯山昭・他の作品/ 伊) マルピエロの作品/ 仏) フランス曲まとめ/ 独) ヴォルフの作品①/ 西) トゥリーナの作品③

第25回 日) 三善晃・他の作品/ 伊) カゼッラの作品①/ 仏) リサイタル曲目選択/ 独) ヴォルフの作品②/ 西) トゥリーナの作品④

第26回 日) 武満徹・他の作品/ 伊) カゼッラの作品②/ 仏) リサイタル曲目選択/ 独) ヴォルフの作品③/ 西) スペイン歌曲まとめ

第27回 日) 木下牧子・他の作品/ 伊) イタリア歌曲まとめ/ 仏) リサイタル曲目研究/ 独) ヴォルフの作品④/ 西) リサイタル曲目選択・研究

第28回 修了各歌曲リサイタルプログラムの準備

第29回 修了各歌曲リサイタルプログラムの準備（通し稽古）

第30回 修了リサイタルプログラムの完成

履修上の注意

コンディションを整え参加すること。事前の学習、朗読。譜読みの他、作品の研究を自主的に行ってのぞむこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

詩集、解説書、評伝など様々な文献を積極的に探し、広範な知識を拡げる努力をすること。

予習・復習・研究を行うこと。(240分以上/週)

前期試演会および修了リサイタルで講評によるフィードバックを行う。

教科書・参考書

教科書：「解説付・日本歌曲選集 1, 2, 3 昭和音楽大学歌曲研究所・編著(全音楽譜出版), 30 Italian songs and arias (ベータース版) Liriche del novecento italiano (Ricordi版)他、フランス歌曲集 1, 2, 3 (全音出版), ブラームス歌曲集(ベータース版)、R. シュトラウス歌曲集(ベレンライター版)他。

科目名－クラス名

歌曲特別演習②

曜日時限

水 4時限

水 5時限

担当教員

井ノ上 了史

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	2～	通年	0		0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

1年次に学んだ歌曲（日・伊・仏・独・西）各5言語の中から2言語を選択し、さらに文化・歴史を踏まえた各作曲者の作品の本質をとらえ専門的な知識と詩の内容を研究するとともに、その歌曲の世界観、芸術性を表現できる歌唱技術を修得する。

学修成果

2年次に選択した2言語を美しく明瞭に表現する歌唱法を身に付けることができる。さまざまな歌曲の世界を知り、リサイタルのレパートリーを作ることができる。選択した歌曲の詩を深く味わい、その国の風景、文化、心を表現する感性を高めることができるとともに指導者としての知識と歌唱法を習得できる。

授業展開と内容

第1回 日) 黎明期の作品①/ 伊) バリゾッティの作品①/ 仏) ドビュッシーの作品①/ 独) モーツァルトの作品①/ 西) グラナドスの作品①

第2回 日) 黎明期の作品②/ 伊) バリゾッティの作品②/ 仏) ドビュッシーの作品②/ 独) モーツァルトの作品②/ 西) グラナドスの作品②

第3回 日) 山田耕作の作品①/ 伊) ベッリーニの作品/ 仏) サンサーンスの作品①/ 独) モーツァルトの作品③/ 西) グラナドスの作品③

第4回 日) 山田耕作の作品②/ 伊) ドニゼッティの作品/ 仏) サンサーンスの作品②/ 独) シューベルトの作品①/ 西) グラナドスの作品④

第5回 日) 信時潔の作品/ 伊) ロッシーニの作品/ 仏) グノーの作品①/ 独) シューベルトの作品②/ 西) ロドリゴの作品①

第6回 日) 橋本國彦の作品/ 伊) メルカダンテの作品①/ 仏) グノーの作品②/ 独) シューベルトの作品③/ 西) ロドリゴの作品②

第7回 日) 平井康三郎の作品①/ 伊) メルカダンテの作品②/ 仏) グノーの作品③/ 独) シューベルトの作品④/ 西) ロドリゴの作品③

第8回 日) 平井康三郎の作品②/ 伊) メルカダンテの作品③/ 仏) グノーの作品④/ 独) シューベルト⑤の作品②/ 西) ロドリゴの作品④

第9回 日) 別宮貞雄の作品①/ 伊) シベッラの作品①/ 仏) グノーの作品⑤/ 独) シューマンの作品①/ 西) オブラドルスの作品①

第10回 日) 別宮貞雄の作品②/ 伊) シベッラの作品②/ 仏) ビゼーの作品①/ 独) シューマンの作品②/ 西) オブラドルスの作品②

第11回 日) 中田喜直の作品①/ 伊) トゥリンデッリの作品①/ 仏) ビゼーの作品②/ 独) シューマンの作品③/ 西) オブラドルスの作品③

第12回 日) 中田喜直の作品②/ 伊) トゥリンデッリの作品②/ 仏) ビゼーの作品③/ 独) シューマンの作品④/ 西) オブラドルスの作品④

第13回 前期試演会プログラムの準備

第14回 前期試演会プログラムの完成

第15回 前期試演会

第16回 日) 高田三郎の作品①/ 伊) ヴォルフ・フェラーリの作品①/ 仏) マスネの作品①/ 独) ブラームスの作品①/ 西) カタルーニャ語の作品

第17回 日) 高田三郎の作品②/ 伊) ヴォルフ・フェラーリの作品②/ 仏) マスネの作品②/ 独) ブラームスの作品②/ 西) モンポウの作品①

第18回 日) 團伊玖磨の作品①/ 伊) レスピーギの作品①/ 仏) プーランクの作品①/ 独) ブラームスの作品③/ 西) モンポウの作品②

第19回 日) 團伊玖磨の作品②/ 伊) レスピーギの作品②/ 仏) プーランクの作品②/ 独) ブラームスの作品④/ 西) モンポウの作品③

第20回 日) 小林秀雄の作品①/ 伊) ピッツェッティの作品①/ 仏) デュバルクの作品①/ 独) R.シュトラウスの作品①/ 西) ガリシア語の作品

第21回 日) 小林秀雄の作品②/ 伊) ピッツェッティの作品②/ 仏) デュバルクの作品②/ 独) R.シュトラウスの作品②/ 西) バスク語の作品

第22回 日) 大中恩の作品①/ 伊) ザンドナイの作品①/ 仏) ショーソンの作品①/ 独) R.シュトラウスの作品③/ 西) トゥリーナの作品①

第23回 日) 大中恩の作品②/ 伊) ザンドナイの作品②/ 仏) ショーソンの作品②/ 独) R.シュトラウスの作品④/ 西) トゥリーナの作品②

第24回 日) 湯山昭・他の作品/ 伊) マルピエロの作品/ 仏) フランス曲まとめ/ 独) ヴォルフの作品①/ 西) トゥリーナの作品③

第25回 日) 三善晃・他の作品/ 伊) カゼッラの作品①/ 仏) リサイタル曲目選択/ 独) ヴォルフの作品②/ 西) トゥリーナの作品④

第26回 日) 武満徹・他の作品/ 伊) カゼッラの作品②/ 仏) リサイタル曲目選択/ 独) ヴォルフの作品③/ 西) スペイン歌曲まとめ

第27回 日) 木下牧子・他の作品/ 伊) イタリア歌曲まとめ/ 仏) リサイタル曲目研究/ 独) ヴォルフの作品④/ 西) リサイタル曲目選択・研究

第28回 修了各歌曲リサイタルプログラムの準備

第29回 修了各歌曲リサイタルプログラムの準備（通し稽古）

第30回 修了リサイタルプログラムの完成

履修上の注意

コンディションを整え参加すること。事前の学習、朗読。譜読みの他、作品の研究を自主的に行ってのぞむこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

詩集、解説書、評伝など様々な文献を積極的に探し、広範な知識を拡げる努力をすること。

予習・復習・研究を行うこと。(240分以上/週)

前期試演会および修了リサイタルで講評によるフィードバックを行う。

教科書・参考書

教科書：「解説付・日本歌曲選集 1, 2, 3 昭和音楽大学歌曲研究所・編著(全音楽譜出版), 30 Italian songs and arias (ベータース版) Liriche del novecento italiano (Ricordi版)他、フランス歌曲集 1, 2, 3 (全音出版), ブラームス歌曲集(ベータース版)、R. シュトラウス歌曲集(ベレンライター版)他。

科目名－クラス名

オペラ特別演習②

曜日時限

金 3時限

金 4時限

担当教員

井ノ上 了吏

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	2～	通年	4		50	0	0	0	50	100

教育到達目標と概要

各個人の声質や役柄のキャラクターを生かし、オペラ歌手に必要な歌唱法及び舞台表現の基礎を総合的に研究する。オペラを創る過程を体感しながらオペラの仕組みを体得していく。前後期ともに其々の研究題材に則した課題の範囲を決め、試演会で発表する。試演会に向けコレペティ稽古、立ち稽古、通し稽古というオペラを創っていく上で定石の過程を踏み、各担当教員から指導を受け、本番までの稽古に臨む。

学修成果

オペラ歌手に必要な歌唱法及び舞台表現の基礎を身に付けることができる。オペラを創る過程を体感しながらオペラの仕組みを体得することができる。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス（配役、演目についての説明）
第2回	コレペティ稽古の基礎
第3回	コレペティ稽古の基礎と応用
第4回	コレペティ稽古の応用
第5回	音楽稽古の基礎
第6回	音楽稽古の基礎と応用
第7回	音楽稽古の応用
第8回	立ち稽古の基礎
第9回	立ち稽古の基礎と応用
第10回	立ち稽古の応用
第11回	立ち稽古の実践
第12回	立ち稽古のまとめ
第13回	通し稽古
第14回	ゲネプロ
第15回	本番（試演会）
第16回	ガイダンス（配役、演目についての説明）
第17回	コレペティ稽古の基礎
第18回	コレペティ稽古の基礎と応用
第19回	コレペティ稽古の応用
第20回	音楽稽古の基礎
第21回	音楽稽古の基礎と応用
第22回	音楽稽古の応用
第23回	立ち稽古の基礎
第24回	立ち稽古の基礎と応用
第25回	立ち稽古の応用
第26回	立ち稽古の応用と実践
第27回	立ち稽古の実践
第28回	通し稽古
第29回	H. P.
第30回	G. P.

履修上の注意

グループで行う授業であり、学修効果を高めるためにも積極的な姿勢で授業に取り組むこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

役に関する十分な研究をして授業に臨む（240分以上/週）
必要に応じて授業外で補講を行う。
前期試演会および修了オペラ公演で講評によるフィードバックを行う。

教科書・参考書

必要に応じてその都度、指示を与える。

科目名－クラス名

声乐①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	4	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。

実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- 歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
- イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
- イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

授業展開と内容

第1回	歌う姿勢
第2回	呼吸法
第3回	身体の使い方
第4回	発声練習（開口母音）
第5回	発声練習（閉口母音）
第6回	正確な音程
第7回	正確なリズム
第8回	イタリア語の正しい発音(母音)
第9回	イタリア語の正しい発音(子音)
第10回	歌詞の理解
第11回	歌詞の表現
第12回	フレーズと音楽づくり
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	歌う姿勢と重心
第17回	呼吸法とプレス
第18回	発声練習と身体の使い方（開口母音）
第19回	発声練習と身体の使い方（閉口母音）
第20回	正確な音程と歌い方
第21回	正確なリズムと歌い方
第22回	イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回	イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回	歌詞の理解力の向上
第25回	歌詞の表現力の向上
第26回	古典歌曲の様式感
第27回	古典歌曲の音楽表現
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

歌詞の意味を調べ音読すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

声乐①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	4	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。

実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- 歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
- イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
- イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

授業展開と内容

第1回	歌う姿勢
第2回	呼吸法
第3回	身体の使い方
第4回	発声練習（開口母音）
第5回	発声練習（閉口母音）
第6回	正確な音程
第7回	正確なリズム
第8回	イタリア語の正しい発音(母音)
第9回	イタリア語の正しい発音(子音)
第10回	歌詞の理解
第11回	歌詞の表現
第12回	フレーズと音楽づくり
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	歌う姿勢と重心
第17回	呼吸法とプレス
第18回	発声練習と身体の使い方（開口母音）
第19回	発声練習と身体の使い方（閉口母音）
第20回	正確な音程と歌い方
第21回	正確なリズムと歌い方
第22回	イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回	イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回	歌詞の理解力の向上
第25回	歌詞の表現力の向上
第26回	古典歌曲の様式感
第27回	古典歌曲の音楽表現
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

歌詞の意味を調べ音読すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

声乐①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	4	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。

実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- 歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
- イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
- イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

授業展開と内容

第1回	歌う姿勢
第2回	呼吸法
第3回	身体の使い方
第4回	発声練習（開口母音）
第5回	発声練習（閉口母音）
第6回	正確な音程
第7回	正確なリズム
第8回	イタリア語の正しい発音(母音)
第9回	イタリア語の正しい発音(子音)
第10回	歌詞の理解
第11回	歌詞の表現
第12回	フレーズと音楽づくり
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	歌う姿勢と重心
第17回	呼吸法とプレス
第18回	発声練習と身体の使い方（開口母音）
第19回	発声練習と身体の使い方（閉口母音）
第20回	正確な音程と歌い方
第21回	正確なリズムと歌い方
第22回	イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回	イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回	歌詞の理解力の向上
第25回	歌詞の表現力の向上
第26回	古典歌曲の様式感
第27回	古典歌曲の音楽表現
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

歌詞の意味を調べ音読すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

声楽Ⅰ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	6	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリア古典歌曲に加え、イタリアベルカントの代表的作曲家及びVerdiの歌曲まで時代を広げて勉強する。実技試験課題は、前期「イタリア古典歌曲又はRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲(4分以内)」後期「Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲(4分以内)」実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
- イタリア古典歌曲(1792年のRossini生誕以前の作曲家による作品)のレパートリーを作り、演奏法と様式感を理解することができる。
- イタリアベルカントの代表的な作曲家(Rossini,Donizetti,Bellini)及びVerdiの室内歌曲のレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。

授業展開と内容

第1回	呼吸、発声練習
第2回	共鳴、身体の使い方の練習
第3回	イタリア語ディクッション(音読)
第4回	イタリア語ディクッション(歌唱)
第5回	正確な音程とリズム
第6回	イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第7回	イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第8回	イタリア語(レチタティーヴォを含む)の正しい発音と歌い方
第9回	歌詞の理解
第10回	歌詞の表現
第11回	時代・様式にあった音楽づくり
第12回	時代・様式にあった表現方法
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の向上
第17回	共鳴、身体の使い方の理解と向上
第18回	イタリア語ディクッションとポジション(音読)
第19回	イタリア語ディクッションとポジション(歌唱)
第20回	正確な音程とリズムを作る能力の向上
第21回	Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第22回	Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第23回	イタリア語(レチタティーヴォを含む)の正しい発音と歌い方の向上
第24回	歌詞の理解力の向上と表現
第25回	歌詞の表現力の向上と歌唱
第26回	時代・様式にあった音楽づくりと表現
第27回	時代・様式にあった表現方法と歌唱
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集、Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

声乐Ⅰ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	6	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリア・ベルカントの代表的作曲家及びVerdiまでの室内歌曲の他、日本歌曲、オペラアリアまでを学生の進歩、能力に合わせて学んでいく。実技試験は前期「Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲1曲(4分以内)」 後期「日本歌曲と自由曲(イタリア語のもの)各1曲(7分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
- イタリア・ベルカントの代表的な作曲家（Rossini, Donizetti, Bellini）及びVerdiの室内歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。
- 日本歌曲のレパートリーを作ると同時に、詩や曲を通じて日本人の心を深く味わい、それを表現することができる。

授業展開と内容

第1回	呼吸、発声練習
第2回	共鳴、身体の使い方の練習
第3回	イタリア語ディクショ（音読）
第4回	イタリア語（歌唱）
第5回	正確な音程とリズム
第6回	イタリア古典歌曲及びRossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲の様式感
第7回	イタリア古典歌曲及びRossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲の演奏法
第8回	イタリア語（レチタティーヴォを含む）の正しい発音と歌い方
第9回	歌詞の理解
第10回	歌詞の表現
第11回	時代・様式にあった音楽づくり
第12回	時代・様式にあった表現方法
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の向上
第17回	共鳴、身体の使い方の理解と向上
第18回	イタリア語・日本語 ディクショとボジショ（音読）
第19回	イタリア語・日本語 ディクショとボジショ（歌唱）
第20回	正確な音程とリズムを作る能力の向上
第21回	Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の様式感
第22回	Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の演奏法
第23回	イタリア語（レチタティーヴォを含む）・日本語の正しい発音と歌い方の向上
第24回	歌詞の理解力の向上と表現
第25回	歌詞の表現力の向上と歌唱
第26回	時代・様式にあった音楽づくりと表現
第27回	時代・様式にあった表現方法と歌唱
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集、Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲集、日本歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

声乐Ⅰ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	6	評価種別	100	0	0	0	0	100
				評価割合						

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリア古典歌曲に加え、イタリアベルカントの代表的作曲家及びVerdiの歌曲まで時代を広げて勉強する。実技試験課題は、前期「イタリア古典歌曲又はRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲(4分以内)」後期「Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲(4分以内)」実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
- イタリア古典歌曲(1792年のRossini生誕以前の作曲家による作品)のレパートリーを作り、演奏法と様式感を理解することができる。
- イタリアベルカントの代表的な作曲家(Rossini,Donizetti,Bellini)及びVerdiの室内歌曲のレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。

授業展開と内容

第1回	呼吸、発声練習
第2回	共鳴、身体の使い方の練習
第3回	イタリア語ディクッション(音読)
第4回	イタリア語ディクッション(歌唱)
第5回	正確な音程とリズム
第6回	イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第7回	イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第8回	イタリア語(レチタティーヴォを含む)の正しい発音と歌い方
第9回	歌詞の理解
第10回	歌詞の表現
第11回	時代・様式にあった音楽づくり
第12回	時代・様式にあった表現方法
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の向上
第17回	共鳴、身体の使い方の理解と向上
第18回	イタリア語ディクッションとポジション(音読)
第19回	イタリア語ディクッションとポジション(歌唱)
第20回	正確な音程とリズムを作る能力の向上
第21回	Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第22回	Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第23回	イタリア語(レチタティーヴォを含む)の正しい発音と歌い方の向上
第24回	歌詞の理解力の向上と表現
第25回	歌詞の表現力の向上と歌唱
第26回	時代・様式にあった音楽づくりと表現
第27回	時代・様式にあった表現方法と歌唱
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集、Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

声乐 I ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	6	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリア・ベルカントの代表的作曲家及びVerdiまでの室内歌曲の他、日本歌曲、オペラアリアまでを学生の進歩、能力に合わせて学んでいく。

実技試験は前期「Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲(4分以内)」 後期「日本歌曲と自由曲(イタリア語のもの)各1曲(7分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- ① 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
- ② イタリア・ベルカントの代表的な作曲家 (Rossini,Donizetti,Bellini) 及びVerdiの室内歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。
- ③ 日本歌曲のレパートリーを作ると同時に、詩や曲を通じて日本人の心を深く味わい、それを表現することができる。

授業展開と内容

- 第1回 呼吸、発声練習
- 第2回 共鳴、身体の使い方の練習
- 第3回 イタリア語ディクショ (音読)
- 第4回 イタリア語 (歌唱)
- 第5回 正確な音程とリズム
- 第6回 イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
- 第7回 イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
- 第8回 イタリア語 (レチタティーヴォを含む) の正しい発音と歌い方
- 第9回 歌詞の理解
- 第10回 歌詞の表現
- 第11回 時代・様式にあった音楽づくり
- 第12回 時代・様式にあった表現方法
- 第13回 前期試験曲の伴奏合わせ
- 第14回 前期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)
- 第15回 前期試験に向けての総合練習
- 第16回 呼吸、発声技術の向上
- 第17回 共鳴、身体の使い方の理解と向上
- 第18回 イタリア語・日本語 ディクショとボジショ (音読)
- 第19回 イタリア語・日本語 ディクショとボジショ (歌唱)
- 第20回 正確な音程とリズムを作る能力の向上
- 第21回 Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の様式感
- 第22回 Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の演奏法
- 第23回 イタリア語 (レチタティーヴォを含む) ・日本語の正しい発音と歌い方の向上
- 第24回 歌詞の理解力の向上と表現
- 第25回 歌詞の表現力の向上と歌唱
- 第26回 時代・様式にあった音楽づくりと表現
- 第27回 時代・様式にあった表現方法と歌唱
- 第28回 後期試験曲の伴奏合わせ
- 第29回 後期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりすることであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集、Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲集、日本歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

声乐 I ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	6	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリア・ベルカントの代表的作曲家及びVerdiまでの室内歌曲の他、日本歌曲、オペラアリアまでを学生の進歩、能力に合わせて学んでいく。

実技試験は前期「Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲1曲(4分以内)」 後期「日本歌曲と自由曲(イタリア語のもの)各1曲(7分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- ① 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
- ② イタリア・ベルカントの代表的な作曲家 (Rossini, Donizetti, Bellini) 及びVerdiの室内歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。
- ③ 日本歌曲のレパートリーを作ると同時に、詩や曲を通じて日本人の心を深く味わい、それを表現することができる。

授業展開と内容

- 第1回 呼吸、発声練習
- 第2回 共鳴、身体の使い方の練習
- 第3回 イタリア語ディクショ (音読)
- 第4回 イタリア語 (歌唱)
- 第5回 正確な音程とリズム
- 第6回 イタリア古典歌曲及びRossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲の様式感
- 第7回 イタリア古典歌曲及びRossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲の演奏法
- 第8回 イタリア語 (レチタティーヴォを含む) の正しい発音と歌い方
- 第9回 歌詞の理解
- 第10回 歌詞の表現
- 第11回 時代・様式にあった音楽づくり
- 第12回 時代・様式にあった表現方法
- 第13回 前期試験曲の伴奏合わせ
- 第14回 前期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)
- 第15回 前期試験に向けての総合練習
- 第16回 呼吸、発声技術の向上
- 第17回 共鳴、身体の使い方の理解と向上
- 第18回 イタリア語・日本語 ディクショとボジショ (音読)
- 第19回 イタリア語・日本語 ディクショとボジショ (歌唱)
- 第20回 正確な音程とリズムを作る能力の向上
- 第21回 Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の様式感
- 第22回 Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の演奏法
- 第23回 イタリア語 (レチタティーヴォを含む) ・日本語の正しい発音と歌い方の向上
- 第24回 歌詞の理解力の向上と表現
- 第25回 歌詞の表現力の向上と歌唱
- 第26回 時代・様式にあった音楽づくりと表現
- 第27回 時代・様式にあった表現方法と歌唱
- 第28回 後期試験曲の伴奏合わせ
- 第29回 後期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集、Rossini, Donizetti, Bellini, Verdiの歌曲集、日本歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

声乐 I ③

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	3～	通年	6	評価方法	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。2年次までの歌曲に加え、学生個々の能力・進度に合わせてオペラアリア、近代歌曲など範囲を広げて学んでいく。実技試験課題は、前期・後期とも「自由曲1曲(イタリア語のもの)(5分以内) ※オペラアリアの場合、Verdi以降の作品は除く」試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- ①歌唱の技術を理解し、ベルカントに基いた歌唱力を向上させることができる。
- ②各々の楽器(声)に合った歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を身につけることができる。
- ③レチタティーヴォの歌い方を覚え、身につけることができる。

授業展開と内容

第1回	呼吸、発声練習
第2回	共鳴、身体の使い方の練習
第3回	イタリア語ディクシオン (音読)
第4回	イタリア語ディクシオン (歌唱)
第5回	レチタティーヴォの歌い方 (レチタティーヴォ・セッコ)
第6回	レチタティーヴォの歌い方 (レチタティーヴォ・アッコムパニャート)
第7回	カデンツァ・修飾音などの歌い方
第8回	アジリタ・ポルタメントなどの歌い方
第9回	歌詞・作品の理解
第10回	歌詞・作品の理解と表現
第11回	時代・様式にあった音楽づくり
第12回	時代・様式にあった表現方法
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の向上
第17回	共鳴、身体の使い方の向上
第18回	イタリア語ディクシオンの向上 (音読)
第19回	イタリア語ディクシオンの向上 (歌唱)
第20回	レチタティーヴォの歌い方の向上 (レチタティーヴォ・セッコ)
第21回	レチタティーヴォの歌い方の向上 (レチタティーヴォ・アッコムパニャート)
第22回	カデンツァ・修飾音などの歌い方 (ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第23回	アジリタ・ポルタメントなどの歌い方 (ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第24回	歌詞・作品の理解力の向上
第25回	歌詞・作品の理解と表現力の向上
第26回	時代・様式にあった音楽づくりの向上
第27回	時代・様式にあった表現方法の向上
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンのため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。実技試験でオペラアリアを歌う場合Verdi以降の作品は除くこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

担当教員から指示のあった任意の歌曲集、アリア集など

科目名－クラス名

声楽 I ③

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	3～	通年	6	評価種別	100	0	0	0	0	100
				評価割合						

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。2年次までの歌曲に加え、学生個々の能力・進度に合わせてオペラアリア、近代歌曲など範囲を広げて学んでいく。実技試験課題は、前期・後期とも「自由曲1曲(イタリア語のもの)(5分以内) ※オペラアリアの場合、Verdi以降の作品は除く」試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- ①歌唱の技術を理解し、ベルカントに基いた歌唱力を向上させることができる。
- ②各々の楽器(声)に合った歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を身につけることができる。
- ③レチタティーヴォの歌い方を覚え、身につけることができる。

授業展開と内容

第1回	呼吸、発声練習
第2回	共鳴、身体の使い方の練習
第3回	イタリア語ディクシオン (音読)
第4回	イタリア語ディクシオン (歌唱)
第5回	レチタティーヴォの歌い方 (レチタティーヴォ・セッコ)
第6回	レチタティーヴォの歌い方 (レチタティーヴォ・アッコンパニヤート)
第7回	カデンツァ・修飾音などの歌い方
第8回	アジリタ・ポルタメントなどの歌い方
第9回	歌詞・作品の理解
第10回	歌詞・作品の理解と表現
第11回	時代・様式にあった音楽づくり
第12回	時代・様式にあった表現方法
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の向上
第17回	共鳴、身体の使い方の向上
第18回	イタリア語ディクシオンの向上 (音読)
第19回	イタリア語ディクシオンの向上 (歌唱)
第20回	レチタティーヴォの歌い方の向上 (レチタティーヴォ・セッコ)
第21回	レチタティーヴォの歌い方の向上 (レチタティーヴォ・アッコンパニヤート)
第22回	カデンツァ・修飾音などの歌い方 (ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第23回	アジリタ・ポルタメントなどの歌い方 (ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第24回	歌詞・作品の理解力の向上
第25回	歌詞・作品の理解と表現力の向上
第26回	時代・様式にあった音楽づくりの向上
第27回	時代・様式にあった表現方法の向上
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ (暗譜)
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンのため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。実技試験でオペラアリアを歌う場合Verdi以降の作品は除くこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

担当教員から指示のあった任意の歌曲集、アリア集など

科目名－クラス名

声楽 I ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。学生個々の声種・能力・進度に合わせてオペラアリア、近代歌曲、日本歌曲など幅広いレパートリーを学んでいく。

実技試験課題は、前期「自由曲1曲(イタリア語のもの)(6分以内) ※オペラアリアの場合、Verdi以降の作品は除く」後期「イタリア歌曲または日本歌曲と自由曲(イタリア語)各1曲(10分以内)」 試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- ①歌唱の技術を理解し、ベルカントに基いた歌唱力を更に向上させることができる。
- ②各々の楽器(声)に合った歌曲(日本歌曲を含む)やオペラアリアのレパートリーを作り、様式感のある演奏法と表現力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回	呼吸、発声技術の向上
第2回	共鳴、身体の使い方の向上
第3回	イタリア語ディクシオン力の向上(音読)
第4回	イタリア語ディクシオン力の向上(歌唱)
第5回	レチタティーヴォの歌い方の向上(レチタティーヴォ・セッコ)
第6回	レチタティーヴォの歌い方の向上(レチタティーヴォ・アッコンパニヤート)
第7回	カデンツァ・修飾音などの歌唱技術の向上
第8回	アジリタ・ポルタメントなどの歌唱技術の向上
第9回	歌詞・作品の理解力の向上
第10回	歌詞・作品の理解と表現力の向上
第11回	時代・様式にあった音楽づくりの向上
第12回	時代・様式にあった表現方法の向上
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の更なる鍛錬
第17回	共鳴、身体の使い方の更なる鍛錬
第18回	イタリア語・日本語 ディクシオン力の習得(音読)
第19回	イタリア語・日本語 ディクシオン力の習得(歌唱)
第20回	レチタティーヴォの歌い方の習得(レチタティーヴォ・セッコ)
第21回	レチタティーヴォの歌い方の習得(レチタティーヴォ・アッコンパニヤート)
第22回	カデンツァ・修飾音などの歌唱技術の向上(ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第23回	アジリタ・ポルタメントなどの歌唱技術の向上(ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第24回	歌詞・作品の理解力の習得
第25回	歌詞・作品の理解と表現力の習得
第26回	時代・様式にあった音楽づくりの習得
第27回	時代・様式にあった表現方法の習得
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンのため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。

実技試験でオペラアリアを歌う場合Verdi以降の作品は除くこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

担当教員から指示のあった任意の歌曲集、アリア集など

科目名－クラス名

声楽 I ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。学生個々の声種・能力・進度に合わせてオペラアリア、近代歌曲、日本歌曲など幅広いレパートリーを学んでいく。

実技試験課題は、前期「自由曲1曲(イタリア語のもの)(6分以内) ※オペラアリアの場合、Verdi以降の作品は除く」後期「イタリア歌曲または日本歌曲と自由曲(イタリア語)各1曲(10分以内)」 試験の点数をもって評価とする。

学修成果

- ①歌唱の技術を理解し、ベルカントに基いた歌唱力を更に向上させることができる。
- ②各々の楽器(声)に合った歌曲(日本歌曲を含む)やオペラアリアのレパートリーを作り、様式感のある演奏法と表現力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回	呼吸、発声技術の向上
第2回	共鳴、身体の使い方の向上
第3回	イタリア語ディクシオン力の向上(音読)
第4回	イタリア語ディクシオン力の向上(歌唱)
第5回	レチタティーヴォの歌い方の向上(レチタティーヴォ・セッコ)
第6回	レチタティーヴォの歌い方の向上(レチタティーヴォ・アコンパニヤート)
第7回	カデンツァ・修飾音などの歌唱技術の向上
第8回	アジリタ・ポルタメントなどの歌唱技術の向上
第9回	歌詞・作品の理解力の向上
第10回	歌詞・作品の理解と表現力の向上
第11回	時代・様式にあった音楽づくりの向上
第12回	時代・様式にあった表現方法の向上
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の更なる鍛錬
第17回	共鳴、身体の使い方の更なる鍛錬
第18回	イタリア語・日本語 ディクシオン力の習得(音読)
第19回	イタリア語・日本語 ディクシオン力の習得(歌唱)
第20回	レチタティーヴォの歌い方の習得(レチタティーヴォ・セッコ)
第21回	レチタティーヴォの歌い方の習得(レチタティーヴォ・アコンパニヤート)
第22回	カデンツァ・修飾音などの歌唱技術の向上(ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第23回	アジリタ・ポルタメントなどの歌唱技術の向上(ロマン派の楽曲に多用される様々な形)
第24回	歌詞・作品の理解力の習得
第25回	歌詞・作品の理解と表現力の習得
第26回	時代・様式にあった音楽づくりの習得
第27回	時代・様式にあった表現方法の習得
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ(暗譜)
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンのため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。

体調管理を怠らないこと。

実技試験でオペラアリアを歌う場合Verdi以降の作品は除くこと。

レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。

オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。

毎日の練習を積み上げる努力をすること。

一日1～2時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

担当教員から指示のあった任意の歌曲集、アリア集など

科目名－クラス名

博士特別表現研究①

声乐

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	1～	通年	2	評価種別	100	0	0	0	0	100
				評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

「博士研究指導」においてオーソライズされた研究計画に従って、声乐の分野の実践的研究を行う。実技のレッスンを主体としつつ、それに関連する歌唱法研究等を行う。年度末には当年度を総括する研究演奏による研究発表を行い、評価を受ける。

学修成果

修士課程までの研鑽の成果や個人の能力・資質に基づいて、きわめて高度な演奏技術の習得と向上を図ることができる。

授業展開と内容

- 第1回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (1) 1年間の計画の立案、研究対象楽曲の決定
- 第2回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (2) 研究対象楽曲①に関する声乐の見地からの考察
- 第3回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (3) 研究対象楽曲①に関する発声の問題点を上げる
- 第4回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (4) 研究対象楽曲①に関する発声を中心とした効果的な表現法
- 第5回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (5) 研究対象楽曲①に関する演奏解釈
- 第6回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (6) 研究対象楽曲①に関する演奏法研究
- 第7回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (7) 研究対象楽曲①に関する全体の曲分析
- 第8回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (8) 研究対象楽曲①に関する全体の演奏法
- 第9回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (9) 研究対象楽曲②に関する声乐の見地からの考察
- 第10回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (10) 研究対象楽曲②に関する発声の問題点を上げる
- 第11回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (11) 研究対象楽曲②に関する発声を中心とした効果的な表現法
- 第12回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (12) 研究対象楽曲②に関する演奏解釈
- 第13回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (13) 研究対象楽曲②に関する演奏法研究
- 第14回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (14) 研究対象楽曲②に関する全体の曲分析
- 第15回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (15) 研究対象楽曲②に関する全体の演奏法
- 第16回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (16) 研究対象楽曲③に関する発声を中心に上げる
- 第17回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (17) 研究対象楽曲③に関する声乐の見地からの考察
- 第18回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (18) 研究対象楽曲③に関する発声を中心とした効果的な表現法
- 第19回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (19) 研究対象楽曲③に関する演奏解釈
- 第20回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (20) 研究対象楽曲③に関する演奏研究
- 第21回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (21) 研究対象楽曲③に関する全体の曲分析
- 第22回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (22) 研究対象楽曲③に関する全体の演奏法
- 第23回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (23) 研究対象楽曲④に関する声乐の見地からの考察
- 第24回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (24) 研究対象楽曲④に関する発声の問題点を上げる
- 第25回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (25) 研究対象楽曲④に関する発声を中心とした効果的な表現法
- 第26回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (26) 研究対象楽曲④に関する演奏解釈
- 第27回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (27) 研究対象楽曲④に関する演奏法研究
- 第28回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (28) 研究対象楽曲④に関する全体の曲分析
- 第29回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (29) 研究対象楽曲④に関する全体の演奏法
- 第30回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (30) 年次研究演奏発表に向けての仕上げ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。単に技術の向上のみならず、多角的な作品の追及を目指すという意識を持って履修すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業外の時間で個人練習の時間を確保し、十分な研究をしてレッスンに臨むこと。

教科書・参考書

必要に応じて指示する。

科目名－クラス名

博士特別表現研究①

作曲

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	
演習	1～	通年	2	評価種別						
				評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

1年次に開講する。「博士研究指導」においてオーソライズされた研究計画に従って、作曲及び関連分野の実践的研究を行う。年度末には当年度を総括する研究作品提出を行い、評価を受ける。

学修成果

修士課程までの研鑽の成果や個人の能力・資質に基づいて、きわめて高度な作曲技術の修得と向上を図ることができる。

授業展開と内容

第1回	作曲構想の研究①導入
第2回	作曲構想の研究②実践
第3回	作曲構想の研究③まとめ
第4回	作曲構想に関わる資料の研究①導入
第5回	作曲構想に関わる資料の研究②実践とまとめ
第6回	作曲構想の原案の作成準備
第7回	作曲構想の原案の作成①導入
第8回	作曲構想の原案の作成②実践
第9回	楽器編成等の設定（オーケストラ、声楽等）
第10回	音楽形式、音素材の設定
第11回	作曲の実践①導入
第12回	作曲の実践②構想に基づいたスケッチ
第13回	作曲の実践③楽器編成等の設定に基づいたアレンジ
第14回	作曲の実践④スコア浄書またはメディア作成
第15回	まとめ
第16回	作曲構想の再検討
第17回	作曲構想の原案の修正
第18回	作曲した部分の再検討
第19回	作曲した部分の修正
第20回	再検討に基づく作曲の実践①導入
第21回	再検討に基づく作曲の実践②構想の検討
第22回	再検討に基づく作曲の実践③原案の修正
第23回	再検討に基づく作曲の実践④構想に基づいたスケッチ
第24回	再検討に基づく作曲の実践⑤スケッチの改善
第25回	再検討に基づく作曲の実践⑥楽器編成等の設定に基づいたアレンジ
第26回	再検討に基づく作曲の実践⑦アレンジの改善
第27回	再検討に基づく作曲の実践⑧スコア浄書またはメディア作成の導入
第28回	作品の楽譜等の作成
第29回	作品解説の作成
第30回	まとめと年次研究作品提出に向けての仕上げ

履修上の注意

毎回のレッスン以外でも常に担当教員と連絡をとり、研究の進捗状況を報告すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンで指導された内容を研究し、作曲に生かし、実践に励むこと。

■ 教科書・参考書

作曲の構想に関わる資料としてレッスン時に指示する。

科目名－クラス名

博士特別表現研究②

ヴァイオリン

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	2～	通年	2		100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

「博士研究指導」においてオーソライズされた研究計画に従って、声楽の分野の実践的研究を行う。実技のレッスンを主体としつつ、それに関連する歌唱法研究等を行う。年度末には当年度を総括する研究演奏による研究発表を行い、評価を受ける。

学修成果

修士課程までの研鑽の成果や個人の能力・資質に基づいて、きわめて高度な演奏技術の習得と向上を図ることができる。

授業展開と内容

- 第1回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (1) 1年間の計画の立案、研究対象楽曲の決定
- 第2回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (2) 研究対象楽曲①に関する声楽の見地からの考察
- 第3回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (3) 研究対象楽曲①に関する発声の問題点を上げる
- 第4回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (4) 研究対象楽曲①に関する発声を中心とした効果的な表現法
- 第5回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (5) 研究対象楽曲①に関する演奏解釈
- 第6回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (6) 研究対象楽曲①に関する演奏法研究
- 第7回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (7) 研究対象楽曲①に関する全体の曲分析
- 第8回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (8) 研究対象楽曲①に関する全体の演奏法
- 第9回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (9) 研究対象楽曲②に関する声楽の見地からの考察
- 第10回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (10) 研究対象楽曲②に関する発声の問題点を上げる
- 第11回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (11) 研究対象楽曲②に関する発声を中心とした効果的な表現法
- 第12回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (12) 研究対象楽曲②に関する演奏解釈
- 第13回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (13) 研究対象楽曲②に関する演奏法研究
- 第14回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (14) 研究対象楽曲②に関する全体の曲分析
- 第15回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (15) 研究対象楽曲②に関する全体の演奏法
- 第16回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (16) 研究対象楽曲③に関する発声を中心に取り上げる
- 第17回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (17) 研究対象楽曲③に関する声楽の見地からの考察
- 第18回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (18) 研究対象楽曲③に関する発声を中心とした効果的な表現法
- 第19回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (19) 研究対象楽曲③に関する演奏解釈
- 第20回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (20) 研究対象楽曲③に関する演奏研究
- 第21回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (21) 研究対象楽曲③に関する全体の曲分析
- 第22回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (22) 研究対象楽曲③に関する全体の演奏法
- 第23回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (23) 研究対象楽曲④に関する声楽の見地からの考察
- 第24回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (24) 研究対象楽曲④に関する発声の問題点を上げる
- 第25回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (25) 研究対象楽曲④に関する発声を中心とした効果的な表現法
- 第26回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (26) 研究対象楽曲④に関する演奏解釈
- 第27回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (27) 研究対象楽曲④に関する演奏法研究
- 第28回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (28) 研究対象楽曲④に関する全体の曲分析
- 第29回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (29) 研究対象楽曲④に関する全体の演奏法
- 第30回 個人レッスンを通じた演奏法研究等 (30) 年次研究演奏発表に向けての仕上げ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。単に技術の向上のみならず、多角的な作品の追及を目指すという意識を持って履修すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業外の時間で個人練習の時間を確保し、十分な研究をしてレッスンに臨むこと。

教科書・参考書

必要に応じて指示する。

科目名－クラス名

博士特別表現研究②

作曲

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	2～	通年	2		0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

2年次に開講する。「博士研究指導」においてオーソライズされた研究計画に従って、作曲及び関連分野の実践的研究を行う。年度末には当年度を総括する研究作品提出を行い、評価を受ける。

学修成果

①の成果に基づいて、より一層高度な技術の修得と、それに裏打ちされた創作の深化を図ることができる。

授業展開と内容

第1回	作曲構想の研究①導入
第2回	作曲構想の研究②実践
第3回	作曲構想の研究③まとめ
第4回	作曲構想に関わる資料の研究①導入
第5回	作曲構想に関わる資料の研究②実践とまとめ
第6回	作曲構想の原案の作成準備
第7回	作曲構想の原案の作成①導入
第8回	作曲構想の原案の作成②実践
第9回	楽器編成等の設定（オーケストラ、声楽等）
第10回	音楽形式、音素材の設定
第11回	作曲の実践①導入
第12回	作曲の実践②構想に基づいたスケッチ
第13回	作曲の実践③楽器編成等の設定に基づいたアレンジ
第14回	作曲の実践④スコア浄書またはメディア作成
第15回	まとめ
第16回	作曲構想の再検討
第17回	作曲構想の原案の修正
第18回	作曲した部分の再検討
第19回	作曲した部分の修正
第20回	再検討に基づく作曲の実践①導入
第21回	再検討に基づく作曲の実践②構想の検討
第22回	再検討に基づく作曲の実践③原案の修正
第23回	再検討に基づく作曲の実践④構想に基づいたスケッチ
第24回	再検討に基づく作曲の実践⑤スケッチの改善
第25回	再検討に基づく作曲の実践⑥楽器編成等の設定に基づいたアレンジ
第26回	再検討に基づく作曲の実践⑦アレンジの改善
第27回	再検討に基づく作曲の実践⑧スコア浄書またはメディア作成の導入
第28回	作品の楽譜等の作成
第29回	作品解説の作成
第30回	まとめと年次研究作品提出に向けての仕上げ

履修上の注意

毎回のレッスン以外でも常に担当教員と連絡をとり、研究の進捗状況を報告すること。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンで指導された内容を研究し、作曲に生かし、実践に励むこと。

■ 教科書・参考書

作曲の構想に関わる資料としてレッスン時に指示する。

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2623 教員名：井ノ上 了吏

音楽指導論特殊講義 「声楽研究」

1) 評価結果に対する所見

Q1,2,6,7,10「あまり思わない」という回答がりますが複数教員、複数コースの授業が対象なのでどの設問に答えるかはこちらで選ばせていただきます。

特にこの授業は多くのコースの生徒が音楽指導者として専門以外の内容をも指導するにあたり身につける考え方や事例を通して学習し成果を上げるものである。

声楽においては管楽器、鍵盤版楽器、アートマネジャーの学生からの講義についての質問などが多く寄せられた。出席している生徒も興味が持って講義に集中していた。

2) 要望への対応・改善方策

Q7についての要望コミュニケーションを教員と学生間にとって進める点では、講義また単元の途中でQ&Aによる講義内容の確認を試みたこれは前回より多く講義内容の中に取り入れたので、次回は生徒の講義に対する考えをその場で簡単に確認して行く形を取り入れてみる。そのうえで学習成果を上げる点につながる内容を導入する。

3) 今後の課題

声楽研究の立場から、多くの学生は小、中、高で合唱、斉唱の経験があるが指導をすることは未経験である、一番質問の多い内容で「どうしたら生徒に声を出させたらよいのか？」である。このことについて学生のレベル、また音楽科目が必修なのか選択なのか、音楽教室、音楽塾と多種多様な現状でも有効な指導を考えていくべきと考えることが課題として挙げられる。

以 上